

1

①

竹林

②

本気

③

文学

④

天空

⑤

入力

2

1

ウ

2

エ

3

ダ

ニ

を

4

ウ

5

ア

2

イ

2

ウ

1

3

1

A

ウ

B

イ

2

1

イ

2

ア

3

ウ

3

ウ

4

年

を

と

り

ま

し

た

の

で

5

ア

6

イ

7

ア

8

お

皿

を

か

し

て

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

1 漢字の書きとり問題は小学校一年生で学習したものを出题している。字形で気をつけなければならないのは、「学」と「空」だが、むしろ、そのことばを知っているかどうかということの方が大切である。漢字の学習は、字の学習であると同時に、ことばの学習である。知らないことばはしっかりと覚えてほしい。

2

1 アは、続く部分に、「あたたかい鳥なので」とあることから確認できる。イも、さらにその続きに「イノシシの食べるものは、山の中に一年じゅうありました」から確認できる。ウは、本文では、「イノシシ」が、「夜になると」「二十頭も、三十頭もやってきて、どろの中をころげまわる」となっていて、山全体で「二十から三十頭」という話ではないことが確認できる。

2 続く部分に、「木の实のない夏のころは、ネズミたちがいたるところにいました」とあり、ここから、「木の实」と「ネズミ」がイノシシの食べ物であることがわかる。また、一文おいて、「さわにおりていけば、サワガニがいくらでもいました」から、サワガニもイノシシの食べ物にふくまれることが確認できる。ダニは、「からだににくいこんでいるダニを取るためです」「ダニにくわれたあとがかゆい」という形で出てきており、食べ物ではないことがわかる。

3 続く文は、「二十頭も、三十頭もやってきて、どろの中をころげまわるのでした」となっていて、——線③をくわしくしただけである。さらにその後「それは……ためなのです」という形で、理由（ここでは目的）が書かれている。

4 「どろの中をころげまわると、こんどは……」に続く部分である。「ころげまわる」のは、「ダニを取るため」であった。同じように、続く部分を確認すると、「ダニにくわれたあとがかゆいので……こすりつける」となっている。アやイをえらんでしまった人は、じぶんがかつてに想像するのではなく、文章にどう書かれているかに目をむけるよう気をつけよう。

5 ア 二行めに「イノシシの食べるものは、山の中に一年じゅうありました」とあるが、これには木の实だけでなく、「ネズミ」「サワガニ」「カズラの根」などもふくまれる。「木の实のない夏のころは」から、木の实が食べられることもあることがわかる。

イ 「歩きまわるだけで……食べ物を見つけることができる」のであって、歩きまわるだけではらっぱいになるのではない。

ウ アの解説とも重なるが、「イノシシは、木の实でも、カズラの根でも、小さな動物でも、なんでもござれで食べる」と書かれている。

3

1 A 「一人でいるのはつらい」というのが、「仲間をさがす」理由である。Bは広告文の中のことばである。広告文は漢字とカタカナで書かれているので、カタカナのものをえらばなければならない。逆に、Aはひらがなのことばである。

2 1 「あんまりにも急いで来たものですから」は、ものすごく急いで来すぎたので、ということである。「にも」に続くので、「大変」は入れられない。

3 「一人でいるのはつらい」から、「仲間をさがす」のである。

4 「ヲ」を「お」にしないこと。

5 イはこまる理由ではなく、解決策である。エの「わすれもの」については、まだ多いかどうかわからない。

6 「それは、全くだいい考えです」に続くのだから、アやウはあてはまらない。

7 「胸をなで下ろす」は、「ほっと胸をなで下ろす」のように使うことが多い。「ほっとする」ようすを表すことばである。

8 かえるさんのことばを聞いて、「それは、全くだいい考えです」と言っているのだから、かえるさんのことばを確認する。かえるさんは、「私は、皆さんがめしあがったあとのお皿をかして頂きます」と言っている。